

令和5年度
第3回 大野市文化財保護審議会
会 議 録

日 時 令和5年11月29日(水)・30日(木)
場 所 岐阜県 高山市・美濃市

大野市文化財保護審議会

出席者 ○委員 4 名
○事務局 1 名

趣旨 令和 6 年に金森長近公の生誕 500 年を迎えることから、長近公が大野市の次に治めた岐阜県高山市と、晩年を過ごした同県美濃市を視察し、知見を広めるとともに、関係者との交流を深める。

視察先（説明対応者）、視察先の概要

（11月29日）

・向牧戸城跡（事務局）

金森長近公の飛騨後略に際して最初に攻めた城。

荘川、郡上、飛騨の行路が交わる要所であり、長近公時代には飛騨最強の山城とされた。

庄川を挟んで牧戸城があり、長近公の築城とする説もあるが、城跡が確認されたのが平成 17 年であり、調査・考察が進んでいない。川の両岸で通行を監視する方法は、白山市の沙羅宮・西沙羅宮でも事例がある。

・飛騨東照宮・金龍神社（事務局）

金龍神社は長近公を祭神とする。

社名は長近公の法号「金龍院」に因む。

・雲龍寺（事務局）

長近公の長男・長則が本能寺の変で戦死したため、長近公が菩提寺として修営。

鐘楼門は高山城の遺構。

・素玄寺（住職）

長近公の菩提寺。大徳寺塔頭の金龍院に改葬され、今は同寺塔頭の龍源院に葬られている。

位牌堂には正面奥に金森家三代の位牌を祀る。

地元の小学生等が見学に来た際には、黒板で素玄寺や金森家の歴史について解説をしている。

法堂は高山城の評議場を移築したもので、左右が非対称になっているのが特徴。

庭園は金森宗和好で、市の指定を受けている。奥に金森家の墓所があるため、その荘厳として築庭されたとも考えられている。

・飛騨山王宮 日枝神社（宮司）

長近公所用と伝わる陣羽織は、使い込んだ形跡はない。

拝殿に多くの絵馬が掲げられている。最古は寛文3年銘の金森頼直公の病氣平癒を願うもの。

- ・飛騨高山まちの博物館（高山市文化財課長、同課主査）

高山の豪商であった永田家・矢嶋家の建物を活用して博物館としている。

歴史は長近公による城下町成立以降を扱っている。他に、伝統行事や伝統工芸など、「まち」の紹介を行っている。

（11月30日）

- ・高山陣屋（高山市文化財課主査）

幕領化に伴い金森氏の下屋敷を陣屋とし、明治以降も県庁や郡役所として機能していた。

屋根の柿葺きは、おおよそ5年のスパンで葺き直しをしており、市民ボランティアによって行われている。

陣屋の模型は、岐阜県立高山工業高等学校建築インテリア科の学生が、「“飛騨の匠”の技と心意気を学ぶ」を研究テーマに製作した。

- ・古い町並み（自由散策）

国選定重要伝統的建造物群保存地区内を各自で視察。

海外からの観光客の受入体制が整っていることを実感。

- ・小倉山城（事務局）

長近公が隠居のために立てた城郭。

南に「目」の字型の城下町を整備した。美濃紙をはじめ、地場産業の振興に注力した。幕府領となり廃城すると、城下町から商業町へと変化した。

- ・旧今井家住宅・美濃史料館

（美濃市美濃和紙推進課長、同課課長補佐、旧今井家住宅・美濃史料館長）

今井家は紙問屋として栄えた。

美濃和紙の紹介に力を入れている。

庭園内の水琴窟は、環境庁により「日本の音風景100選」に選ばれた。

最近は、庭園内の稲荷神社の灯籠に彫刻された「猪目」に触れると運気が上がるとして、人気が高まっている。

- ・うだつの上がる町並み（事務局）

うだつの「破風」は、当初は左右2枚ずつ瓦を葺いていたが、時代が経るに従い1枚ずつの大きな瓦で葺くようになった。左右2枚ずつの旧今井家住宅の破風は古い時代のもの。

時代が経るに従い、破風下に懸魚が付くようになり、大型化していく。

うだつの「鳥衾」は、時代を経るに従い大型化していく。

丸みを帯びた「むくり屋根」を持つ「小坂酒造場」は国の重要文化財に指定されている。客を迎えるためにむくり屋根にしたとされるが、建築には莫大な費用が掛かる。

もともと平田家と古川家の境には、平田家のうだつが建てられていた。まちの暗黙のルールでは、隣接する家は同所にうだつを建てないこととなっていたが、古川家は平田家のうだつに並べて、より高いうだつを建てている。

・ 上有知湊（事務局）

美濃紙の輸送口として長近公が整備した川湊。

湊のシンボルにもなっている灯台は、大野市結ステーションの時鐘のモデルになっている。

備考

事前に高山市教育委員会から「寒冷」「熊出没」の注意喚起があったため、「松倉城跡」の視察を取りやめ、「金龍神社」「雲龍寺」に変更した。
当日、参加者の体調を考慮し、「高山城跡」の視察を取りやめた。